

ふるさと工房五日市の管理運営の状況について

1 公の施設の概要について

施設の概要	名称	ふるさと工房五日市
	所在地	あきる野市乙津671番地
	所管課	環境経済部商工観光課観光推進係（内線）2533
指定管理者	名称	新四季創造株式会社
	所在地	あきる野市乙津671番地
	業務内容	①社会教育事に関すること ②オリジナル製品の創作・販売事業、修復事業に関すること ③作品等受託販売事業に関すること ④ギャラリー事業に関すること ⑤カフェ事業に関すること ⑥貸室・貸自転車事業に関すること ⑦「軍道紙」関連事業に関すること ⑧情報・図書室当パブリックスペース運営事業に関すること ⑨施設の維持管理に関すること ⑩施設の利用促進を図るための企画実施に関すること
ホームページ URL		http://www.furusato-kobo.jp
指定期間		平成19年4月1日～平成24年3月31日

2 施設の利用状況等について

項目	平成19年度
利用者数（人）	14,345
前年度比（人）	
前年度比（%）	
利用料金収入（円）	17,425,780
前年度比（円）	
前年度比（%）	

3 施設の収支状況について（単位：円）

項目		平成19年度
収 入	指定管理料	0
	利用料金	17,116,256
	その他の収入	309,524
	計	17,425,780
支 出	人件費	38,850,031
	維持管理経費	4,247,813
	市への納付金等	0
	その他	5,167,921
	計	48,265,765
収支合計		△30,839,985

4 利用者からの苦情・意見等とその対応状況について

意見等の概要	対応状況
場所（入口）がわかりにくいなどの意見が寄せられている。	隣接地の草刈りを行い、入口を分かりやすくした。檜原街道沿いに案内板を設置した。
温泉との往來を便利にしてほしい。	瀬音の湯行きバスの自由乗降区間、時間の設定、会社送迎車運行などの検討中（未実施）
指導スタッフが制作の多くをやってしまい、体験者が自由に造りたいという意見が寄せられた。	指導の考え方・方針を徹底すべくミーティングを行い、体験者の意見を尊重するように改善した。
トイレなど館内表示を分かりやすくしてほしい。	館内に案内板を設置し、充実を図った。

5 利用者満足度の把握について

把握方法	アンケート調査
調査結果	アンケート調査により、上述のとおり、改善できる点については改善し、利用者の利便性を図っている。

6 利用者サービスの向上又は経費の削減等に向けた取組について（実績・予定、効果等）

取組の内容	効果等
陶芸工房では、完成作品を受け取りに来た方へ、次回以降 200 円の割引券（エコチケット）を発行した。	体験者が作品を受け取りにくることで、梱包作業の効率化や梱包材の節約が図られ、さらにリピート効果にもつながる。
和紙工房では、屋外水槽（煮た楮を洗浄するのに使用する。）に沢水を引き、水道水の節約を図っている。	水道料金の縮減が図られた。（使用量の約 1/2）自然水の使用により、楮の十分な洗浄ができ紙質が向上し、伝統に近い和紙が作成できた。
和紙工房では、保存会活動や年間ワークショップ計画など内容が分かる案内ちらしを発行している。	ふるさと工房の概要を紹介し、リピート効果を図る。
利用スタンプカードを発行する。（予定）	ふるさと工房に来ていただいた方に、1人1日1個のスタンプを押し、5個ではがき漉きか絵付けの体験が1回無料の特典をつけ、リピート効果を狙う。

7 総合評価

指定管理者の評価 (次年度以降における業務改善につなげていくための総括又は自己評価)
平成19年度の実績は、当初予測していた数字には及ばなかった。このことは、施設のPR不足や各種教室のPR不足などが大きく影響していると考えている。今後は、広報・宣伝活動を充実し、リピーターの確保を図り、気軽に体験できるような教室も考え、体験者の増加に努めていきたい。
設置者（所管課）の評価 (次年度以降における業務改善につなげていくための指定管理者の管理に係る括的な評価)
<p>ふるさと工房の運営については、平成17年度まであきる野市観光協会五日市支部が運営しており、平成14年度から利用者が2万人を割り、平成14年度は約18,000人、平成15年度は約15,500人、平成16年度は約15,200人、平成17年度は年度途中で営業を中止しているため、約13,300人の利用があった。</p> <p>平成19年4月1日から、新四季創造株式会社が指定管理者として新たにふるさと工房を運営し始め、リニューアルオープン1年目ということで、平成15年度や平成16年度の利用者数を上回るものと期待していたが、15,000人を割る利用者であり、体験料等の収入においても、平成16年度の約15,300千円は上回ったものの、平成15年度の約19,100千円を下回るものであった。各種の教室については、市の広報やふるさと工房のホームページ等で積極的にPRしているが、どの事業も定員には満たず、飛び込みの一般体験者も予想以上に少なかった。</p> <p>また、支出面では人件費が支出合計の約8割を占めており、この点がいちばん大きな問題であり、平成20年度においては、更なる利用者の増加を図り、人件費の削減に努める必要がある。</p>